

法遍寺 から大切な 皆様へ

2023年10月1日

日蓮正宗 年間方針

折伏躍動の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

僧俗一致・異体同心の
団結

年間実践テーマ

① 勤行・唱題の徹底で活動
の充実

自分自身が日々納得
のできる勤行・唱題を

② 破邪顕正の折伏で誓願
達成

御聖意を拝し、身軽法重
死身弘法の決意に立つ

③ 寺院参詣と登山推進で
人材育成

『金沢の抜け参り』のお
姿を忘れず寺院参詣・
御登山の推進を強化

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(電話番号：0561-54-9226)

相談無料 <https://hohenji.net/>



2023年9月23日 秋季彼岸会法要の様子

慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日頭上人が開基となって、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人様の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ「我が生命の尊厳を顕すは成仏にあり」

「つもり」という言葉がある。塵も積もれば山となるが、人間の「つもり」だけは何も積もらない。大聖人は若干二十歳を過ぎたばかりの青年地頭の南条時光殿に対し「人々を成仏に導く仏の教えとは、動かない車輪には油を差すことを教え、砂上の船も水上にあって進めるごとく、成仏の道理を教え施しをなすことである」(御書1528趣意)と、仏の心をこのように教えられました。地頭職の時光殿は、大聖人の教えを素朴一途な心で受け止め、教えのままに実行することを貫かれたのです。どんな正論や道理であっても、自分の耳や心の器で受け入れがたいものは敬遠するのが凡夫の常です。私たちにとって一番大切なものは自分の命です。命の尊厳性は、我が心をお題目に託して御本尊に捧げ、尊い志を形に顕して供養の福德とし、また慈悲の力を惜しまず人々に折伏することで輝くのです。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ(創価学会破門の経緯を知らない方へ その38)

『第二 創価学会の教義上の違背』創価学会は、現在、本宗の伝統法義に対して、重大明白な違背を犯しております。本宗の三宝中、仏宝及び法宝の意義内容たる人法一箇の御本尊について、池田大作氏は、「宇宙根源の法をそのまま御図顕あそばされた大御本尊」などという、御本仏大聖人の己証から外れた法偏重の謬義を繰り返し述べております。これは、まさに本宗の教義を破壊する大謗法であります。しかも、池田氏は、過去にも、あろうことか何体もの板御本尊を、勝手に模刻するという大罪を犯しております。また本宗の僧宝は、唯授一人の法体血脈所受の人にして、第二祖日興上人を随一とし、歴代法主の全てにわたるのであります。すなわち、法主は、血脈法水のもとに、本尊書写並びに教義に関する正否の裁定をはじめ、仏法の化儀における一切の権能を具えるのであります。故に、本宗の僧俗は、自行においても、また広布進展の上からも、法主の指南に信伏随従しなければなりません。しかるに、創価学会では、この血脈付法の法主に信伏随従する信条を、「盲信への強要」であると誹謗したり、また法主に対して、「二枚舌」「悪鬼入其身」「天魔」「法滅の法主」「日頭宗」などと誹謗中傷の限りを尽くし、本宗の命脈である唯授一人の血脈の尊厳を、甚だしく冒しているのであります。これは、明らかに本宗相伝の僧宝義・血脈義に背反する大謗法であります。さらに、『聖教新聞』『創価新報』等の機関紙において、広い意味で僧宝に含まれる宗門僧侶に対し、実名・顔写真入りで、口を極めて悪口中傷し、その社会的信用を大きく失墜させております。このように、現在の創価学会が、本宗信仰の根幹である下種三宝を著しく破壊していることは、火を見るよりも明らかであります。(次回は、『創価学会の教義上の違背』(二)、(三)となります)